

2011. 5. 28 (土)

朝日(夕)

享月

第3種郵便物認可

ボランティア情報 神戸に発信の拠点

東日本大震災の被災地へボランティアに行きたい人に、最新の現地情報を提供する拠点が27日、「ひょうごボランティアプラザ」(神戸市中央区)内にできた。今どんな募集があるか、宿泊施設の空き状況、

交通機関の最新情報などを提供する。高橋守雄・所長代理は「個別の情報発信はあるが、宮城、福島、岩手3県の最新情報を一覧できるホームページは全国初では」と話す。名称は「ボランティア・

インフォメーションセンター・兵庫」。3県の約20カ所の社会福祉協議会などに電話で問い合わせる情報を収集し、ホームページ(http://www.hyogo-vp.laza.jp/higashinohon/vinfo_hyogo.html)に載せる。平日の午前9時から午後5時まで専用電話(078・360・0068)でも対応する。兵庫県と同プラザは、4月20日から、東北自動車道

・泉パーキングエリア(仙台市)の隣接地に現地情報を知らせる窓口を開いた。だが黄金週間後に利用者が急減したため、今日15日に閉鎖した。しかし、現地からまとめた情報発信ができる体制がまだ整っていないため、

神戸市内で同じ役割を続けることにした。情報収集にあたる職員1人、池添麻奈さん(28)は、東京電力福島第一原発から20km圏内の福島県富岡町から3月下旬、神戸市中央区の県営住宅に避難してきた。県の非常勤職員として雇用され、今日16日から勤務する。「被災地のために何かしたいと思っても戻れず、もどかしい思いをしていました。こういう形で被災地とつながることができてうれしいです。頑張れます」(井石栄司)

関西に避難の方 どうぞ



倉庫に家電製品が所狭しと並び
＝神戸市須磨区、小林裕幸撮影

神戸市のNPO法人「神戸西・助け合いネットワーク」が、市民から寄せられた家電などを、東日本大震災で関西に避難した被災者に無償提供している。

神戸のNPO 家電など提供

同ネットは、地震発生直後から、避難した人たちが当面の生活で不自由しないようにと必需品を募り、兵庫県内で提供を始めた。その後、他府県に避難した人たちにも提供の枠を広げた。衣類や食器、調理器具や家電など生活必需品を網羅。活動を知った量販店からは新品の冷蔵庫や炊飯器も寄せられた。在里俊一理事長(66)は「身近に被災者がいる人は、この支援があることを伝えてほしい」と話している。問い合わせは同ネットワーク(078・795・3786)へ。